VISION

— 視線の先に — Vol.29

出雲市長
飯塚俊之（いいつかとしゆき）

市民とともに『前へ』

―魅力あふれる出雲をめざして―

神々が集う縁結びのまち　出雲
広範な地域に
多様な産業と人々が息づく
古くからの歴史・文化と
未来を見据えた挑戦の融合
そんな出雲市を訪ね
飯塚市長の視線の先にある
「VISION」について伺いました

面　積：624.36㎢
人　口：174,769人
国保被保険者数：30,607人
（令和３年９月末時点）

MOVE FORWARD 前へ！

神々が集う「神在月（かみありづき）」

国保連合会　竹中事務局長（以下、竹中）
飯塚市長は今年の4月に就任されました。市議として3期12年の実績もあり、出雲市政との関係も以前から深いことと思います。市長就任から6カ月、率直なご感想などお聞かせいただけますか。

飯塚　俊之　出雲市長（以下、飯塚市長）
就任以降、この半年間だけでも、さまざまなことが起きています。新型コロナウイルスの感染拡大をはじめ、豪雨災害、火災、特殊詐欺被害の多発など思わしくない出来事もありました。まずは市民生活を守ることを第一に、日々課題に取り組んでいるところです。

竹中　新型コロナウイルスのワクチン接種も相まって、大変お忙しいことと思います。

飯塚市長　施策を進めるにしても、現在は感染症対策を考慮する必要があります。私だけではなく、職員の負担が大きくなっていると感じていますが、市民の皆さんのため尽力してくれており、大変心強いです。ワクチン接種は、県立中央病院、島根大学医学部附属病院、出雲市医師会等、医療関係者の皆さまの協力にとても感謝しています。ありがたいことに、本市は医療機関が充実しています。市独自のワクチン接種優先枠を設ける等の対応もしましたが、おかげさまで順調に接種が進んでおります。

竹中　10月に入り、ここ出雲地方では「神在月」となりました。出雲市の観光振興にとって絶好の時期かと思います。

飯塚市長　日本各地で「神無月（かんなづき）」と呼ばれる旧暦の10月は、出雲地方で「神在月」。ご存じのとおり、全国から八百万（やおよろず）の神々が出雲にお集まりになられます。出雲大社（いずもおおやしろ）では、神迎神事や神在祭が執り行われるなど、注目度も高く、特別な時期と言えます。本市では、この10月11月を「神在月文化振興月間」と定め、関連イベントを行うなど、古代出雲文化の全国発信に力を入れています。特に今年は、ここ出雲を舞台とした新作アニメ映画『神在月のこども』が全国ロードショーされます。予告映像の制作をはじめ、タイアップした取り組みも積極的に行っています。映画には、大国主命（おおくにぬしのみこと）や白うさぎといった出雲神話に欠かせないキャラクターが登場し、稲佐の浜など地域スポットも出てきます。アニメとのタイアップにより、新たな出雲ファンの掘り起こしもできるものと期待しています。

神々をお迎えする「稲佐の浜」

©2021映画
「神在月のこども」製作御縁会

人口増を実現

竹中　それは良い宣伝になりますね。観光客も増えるのではないでしょうか。
次に、県内市町村の多くが課題として取り組んでいる人口減少対策について、貴市の状況をお聞かせいただけますか。

飯塚市長　本市は、令和2年国勢調査の速報値において、県内8市で唯一、人口増を実現しました。U・Iターン者数も県内ではトップクラスです。企業誘致を着実に進めてきたことが功を

奏し、労働人口、定住人口が増加したものと思います。多くの日系ブラジル人の方が大手企業で就労されており、人口17万5千人のうち、約5千人が外国人在住者です。

しかし、にぎわいの増す地域がある一方、山間部や海岸部では人口が減少しており、コミュニティの維持が難しくなりつつあるなど、二極化が進んでいます。市全体としては人口が増えていますので、この流れを拡大させ、市内どこに住んでいても安心して暮らせる地域づくりを進めていかなければなりません。これからは地域課題に応じた支援と、引き続き、雇用の場の確保、若者の定住に努めていきたいと考えています。

官民一緒になって「前へ」好循環を生み出す

竹中　貴市では、主要施策の一つに「雇用創出2500人プロジェクト」を掲げていらっしゃいますね。飯塚市長は、合併後の出雲市としては初の民間出身の市長さんですが、経済、産業振興等についてはいかがお考えですか。

飯塚市長　私は、自らが市政のコーディネーターとして、本市の潜在力を引き出すとともに、さらなる魅力向上を図っていきたいと考えています。民間の力も借りながら、オール出雲でスクラムを組み「前へ」進みたいと思います。本市には訴求力のある、すばらしい技術を持った地元企業もたくさんあります。まだまだPR不足のところもありますので、地域産業の拡大を図るためにも、積極的にトップセールスを行っていきたいと思っております。加えて、高校生向けの職業体験の実施など、彼らが就労の場の選択肢に地元企業を入れてくれるような取り組みも行いたいと思います。

また、本市は、海、山、湖と自然にも恵まれており、高品質な産品が豊富です。これらをブランド化し、高収益事業とするなど一層の魅力化を図ることで、経営体質の強化、担い手不足の解消につなげていく必要もあると思っています。

特産品の数々

実は、農業分野への若者の就労が増えつつあります。また、IT関連で起業した方たちにも若者が多く、さまざまな分野で若者が活躍しています。中には「チーム出雲」として仕事を請け、働く人を割り振るといった仕組みを取り入れているところもあります。地域課題と向き合った新しい取り組みには、大いに期待しているところであり、今後も支援していきたいと考えています。

私は、本市で生まれ育った子どもたちが、卒業後に県外へ行ったとしても、帰りたいと思えるようなまちづくりをしたいと考えています。そのためには、若者の受け皿となる魅力的な職場や産業が必要です。行政と若い起業家たちが一緒になって地域課題を解決し、地域が良い方向に変化していく姿を示すことは、ここ出雲で活躍したいと思ってもらうきっかけになると思います。官民一緒になって、好循環を生み出していきたいです。

「ゼロカーボンシティ」宣言

竹中　「脱炭素社会の実現」や「デジタルファーストの推進」の取り組みについてもお聞かせいただけますか。

飯塚市長　国において「2050年カーボンニュートラル」が宣言され、脱炭素社会実現に向けた取り組みは加速するものと思われます。本市においても、ふるさと出雲を次世代につなぐため、2050年までに二酸化炭素の排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を宣言しました。宣言したことによって、市民の皆さんにも関心を持っていただいていると実感しています。本市には、太陽光や風力など再生可能エネルギーによる発電施設があり、本年7月には、官民共同出資による新電力会社を設立

新電力事業に関する連携協定締結式

しました。市役所にも新たに「ゼロカーボン推進室」を設け、「脱炭素のまち出雲」の実現を目指します。

デジタル化の推進は、市民サービスの向上や産業振興を目的に、「出雲市デジタルファースト推進計画」に基づき進めています。知見を有する外部専門人材をDX（デジタルトランスフォーメーション）アドバイザーとして登用し、庁内各部署のデジタル化を進めています。

市民の活躍で健康づくり事業が支えられています

竹中　健康に暮らせるまちづくりについてはいかがですか。

飯塚市長　本市では、「第2次出雲市健康増進計画」と「第3次出雲市食育推進計画」を2本柱とした「出雲市健康のまちづくり基本計画」を平成30年3月に策定しました。「健康なライフスタイルと健康のまちづくりの実現」、「心身の健康増進と豊かな人間性の育成」を理念に掲げ、生涯にわたる健康づくり活動、健康寿命の延伸に向けた取り組みを一体的かつ総合的に推進しています。

竹中　健康に暮らせるまちを目指すための体制についてはいかがですか。

飯塚市長　健康増進施策を総合的かつ計画的に推進するため、行政と医療、教育、地域等さまざまな分野の委員からなる「出雲市健康のまちづくり推進会議」を設置しています。計画の策定から評価までを一緒に行い、委員間での情報共有、意見交換も活発に行っています。また、より具体的施策を話し合う場として、ライフステージに応じた会議体も設置しており、昨年度は、本市と全国健康保険協会島根支部、島根産業保健総合支援センター、出雲保健所を構成メンバーとした「働き盛り世代の健康づくり推進連絡会」を立ち上げました。地域と職域の連携により、働き盛り世代に的を絞った保健事業の展開を進めているところです。

健康づくりにおいては、地域ごとの活動も重要です。市内43地区に設置されているコミュニティセンターを拠点としてさまざまな健康づくり活動が行われているほか、13地区では「地区健康づくりネットワーク」をつくり、関係者の連携の下、踏み込んだ事業も行われています。

また本市には、市全体の健康づくり目標を市と協働で進めるとともに、地域特性に応じた健康づくり事業を行う「健康づくり推進員」、子育て支援を行う「子育てサポーター」、食育活動を通じた健康づくりを支援する「食のボランティア」など、地域のために活動してくださる市民の方々や、高齢者の介護予防事業に取り組む「通いの場」を支援する活動団体などが多く、それぞれの活動、活躍が、本市の健康づくり事業を支える大きな力となっています。

みんなでラジオ体操
（川跡（かわと）地区の健康づくり活動）

子どもたちの健やかな成長を願って

竹中　力を入れている取り組み、特色ある取り組みについてお聞かせいただけますか。

飯塚市長　母子保健事業では、母親の不安や悩みを軽減し、親子が健やかに生活できるよう、保健師や助産師による産後訪問、あかちゃん声かけ訪問員による生後2、3カ月頃の家庭訪問を実施しています。いずれも全戸訪問するなど、きめ細やかな取り組みを行っているところです。また、出雲市母子健康包括支援センター「きずな」では、妊産婦および乳幼児の健康保持・増進に関する包括的な支援を行うため、専任職員を配置しています。妊娠届出時の相談を強化し、支援の必要性にかかるアセスメントを実施するとともに、専用の電話回線を設置して個別支援にもあたっています。市内の産婦人科医師や助産師等とも現状や課題を共有して

お話を伺う本会竹中事務局長（右）

おり、支援体制等を協議する関係者会議も定期的に開催しています。

そのほか、子どもたちの健やかな成長に向けた支援の一つとして、外国から転入してきた子どもたちへ日本語指導を行う取り組みを実施しています。外国人労働者の増加に伴い、外国籍の子どもたちが増えていますが、日本語の習得が十分でない児童・生徒にとっては、学校生活、日本語による授業は難しいものです。子どもたちができるだけ早く学校生活に溶け込めるよう、転入後すぐに学校へ通いはじめるのではなく、あいさつや簡単なコミュニケーション、マナー等を学ぶ「集中指導教室」という場でワンステップを踏み学校へ通うという体制を整えています。子どもたちへの支援は、出雲市の発展につながる重要な取り組みです。今後も引き続き、力を入れて取り組んでいきます。

日本語教育（買い物指導）の様子

竹中　先進的なすばらしい取り組みをなさっていますね。

続いて、国保や介護における課題等についてはいかがですか。

飯塚市長　健康なまちづくり基本計画の推進と併せ、国保被保険者の健康寿命の延伸や健康の保持増進を図るため、平成30年度から令和5年度を計画期間とした「第2期データヘルス計画」の推進に力を入れています。取り組み目標の一つとして掲げている生活習慣病重症化予防対策では、医療機関との連携体制構築や個別フォローの充実により、新規人工透析患者数が減少するなどの効果が見えてきました。しかし、依然としてハイリスク者が多い状況です。継続した取り組みを行う必要があると思っています。

介護においては、人材の確保、定着が課題です。本市が令和2年度に実施した調査でも、市内の介護サービス事業所等における介護人材の充足率は、平成28年度調査時点よりも低下していました。人材不足により、受入定員を減員せざるを得ない事業所や休止・廃止事業所が増えるなどの影響も出ています。対策を講じるべく、現在検討を重ねているところです。

竹中　今後、国保連合会に望むこと等があればお聞かせください。

飯塚市長　市町村事務処理標準システムの導入をはじめ、市町村業務の統一化・効率化に向け、国保連合会には一層の支援、協力をお願いしたいと思います。また、保健事業の取り組みにおいては、貴会から提供いただくデータや分析情報が、実効性のある事業展開につながっています。こちらについても、引き続き支援をお願いします。

出雲市は、国の特別天然記念物「朱鷺（とき）」の分散飼育地の一つ
（放鳥に向けて通年一般公開されています）

趣味と実益を兼ねて

竹中　最後に、市長の健康法や趣味についてお聞かせいただけますか。

飯塚市長　これと言った健康法がなくて…。庁内では、エレベーターを使わず階段を使うように心がけていることくらいでしょうか。

竹中　ゴルフがお上手と伺っておりますが。

飯塚市長　上手ということではありませんが、ゴルフは好きで機会があればよく行っていました。しかし、最近は十分な時間がとれず全くと言っていいほど行けていません。

ゴルフをしながら、いろいろな人から話を聞かせていただいたり、仲良くなって人脈を広げたりできるのは、ある意味「趣味と実益を兼ねている」とも言えます。落ち着いたら、ぜひ楽しみたいと思います。

「ゼロカーボンシティ」宣言にあたり、環境大臣から寄せられたメッセージ

運動会でも「前へ」!!
（お子さんが小学生の頃の写真）